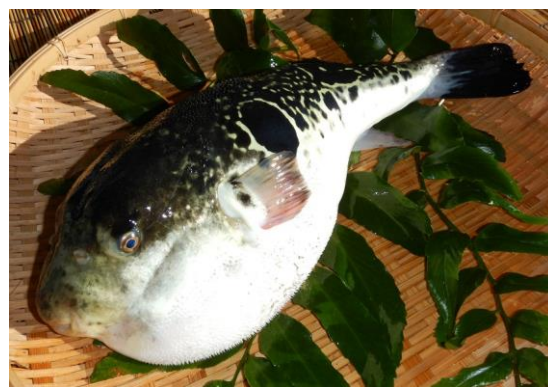


●漁況情報 2023年祈大漁！

- 12月上旬から、長井町漁協 トラフグ延縄漁業者グループ 福会の、かながわブランド「相模のとらふぐ」延縄漁が始まりました。12月の漁模様は若干低調でしたが、前年度は長井地区で過去最高の8.5tを上回る漁があったので、今後の漁模様に期待したい所です。12月24日には「食彩の王国」で、トラフグ延縄漁の様子が全国ネットで放映され、視聴者の反響もあるそうです。
JF長井町漁協「相模のとらふぐ」 <http://jf-nagaimachi.info/free/torafugu-sagami>



トラフグ延縄漁の様子 丸々と太った旬の天然・釣物「相模のとらふぐ」

●浜の話題

- 12月6日、横須賀市東部漁協 走水大津支所において走水小学校の3年生（10名）が、ワカメの種挿しを体験しました。当日は、同支所所属ののりゆき丸さん御一家から、幼葉の付いた種糸を幹繩に挟み込む方法を指導され、子供たちはとても熱心に種挿しを行っていました。種挿しされたワカメはのりゆき丸さんによって、同小学校からも見えるワカメ筏で養殖し、3月にワカメの収穫体験を行う予定です。



ワカメの種挿し体験の様子

- 12月13日、水産技術センターは、県下のトラフグ延縄漁業者を対象とした研修会を開催し、漁業者及び関係機関など21名の参加がありました。当日は、江の島丸で実施した底延縄調査結果やトラフグ資源分布等について、当センター栽培推進部研究員と（国研）水産研究・教育機構の研究員より説明があり、トラフグの種苗放流や資源管理について、活発な議論がありました。



トラフグ研修会の様子

- 12月13日に小坪漁協、27日に横浜市漁協柴支所で、当センター栽培推進部が生産したアカモク種苗を用いて、地元漁業者と昨年引続き養殖試験を始めました。相模湾側では、アカモクが激減し、増加傾向にある東京湾側でも資源増殖管理のため、養殖し成熟したアカモクを増殖用の母海藻として用いるそうです。



アカモク種苗

種挿しの様子と種挿した親縄

- 12月15日、三和漁協城ヶ島支所は城ヶ島周辺の海域で、漁業者やダイバーなどが参加し、ウニ駆除を実施しました。また、ウニ駆除の後に、サザエ種苗（殻長約20mm）15,000個を放流しました。磯焼け対策と相まって放流種苗が順調に成長することを期待したいところです。



見突きによるウニ駆除の様子



サザエ種苗の放流

- 12月16日、茅ヶ崎市漁協で漁業者が養殖わかめの沖出し作業を行いました。温暖化や黒潮の影響により県内各地で食害が多い中、茅ヶ崎沖の漁場は食害が少なく順調に生育しているようです。



種挿し作業の様子



種苗をつけた縄を沖の漁場に張り立てます

- 10月26日の漁業士研修会での当センター栽培推進部研究員の講演を受けて、小坪漁協では早熟カジメの養殖を始めました。12月20日、栽培推進部研究員が当センターで生産した種苗96株を持ち込み、同漁協所属指導漁業士のワカメ養殖筏に渡した親縄で育成を始めました。漁業者は、磯焼け下で枯渇した海藻増殖の要として、早熟カジメを用いた増殖に期待しております。



早熟カジメの増殖効果に期待する指導漁業士

- 12月20日、栽培推進部研究員は、小坪漁協所属漁業者の協力の下、磯焼け下の海域に放流したサザエ種苗の動向調査を実施し、磯焼け下でも順調に成長している様子が確認できました。
- 12月26日、江の島片瀬漁協で漁業者が養殖わかめの沖出し作業を行いました。食害は少ないようですが、黒潮による高水温の影響でわかめの生育が思わしくなく、これから水温の低下とともに成長の回復を期待するところです。
- 12月27日、平塚市漁協は、漁港を活用した藻場造成によるCO₂固定の実証実験（浜の話題・前号）として、市民参加による種挿し体験を交え、平塚漁港内でわかめ養殖を開始しました。成長とともに二酸化炭素を吸収したわかめを、3月に収穫する予定です。
- 12月29・30日、三和漁協上宮田支所青年部は、同漁港内の地魚直売所で「年末どっとこいセール」を開催しました。当日は定置網や刺網の朝どれのスズキ、マアジ、カワハギ、カサゴ、メバル、サザエ、旬のナマコ等が並び、好評の内に完売しました。



29日の直売の様子



地魚 PR パンフレット

- 1月12日、小田原藻場再生活動組織は相模湾試験場が生産したカジメ種苗の養殖用ロープへの種挿し作業を行いました。今後は活動組織で種苗を移植用カジメ株へと成長させ、昨年設置したコンクリート母藻礁へ投入していく予定とのことです。



種挿し作業の様子



種挿し後の養殖用ロープ

- 1月13日、かながわ県民センターホールにおいて、県漁連、神奈川県漁業士会、県の共催により、「新春漁業者交流大会」が開催されました。漁業士認定証書授与式の後、岩漁協所属青年漁業士から「真鶴町岩沖におけるイワガキ養殖について」の活動発表、大磯二宮漁協所属青年漁業士から「漁業士会活動紹介」、(公財)県栽培漁業協会専務理事より「生残率を高める種苗放流方法について」講演がありました。令和元年以来3年振りの開催でしたが、漁業者及び関係団体の皆さま111名の参加があり、盛況な大会となりました。



盛況な大会となりました！



新青年漁業士の自己紹介



青年漁業士からのイワガキ養殖についての活動発表 (公財) 県栽培漁業協会専務理事の講演



- 1月13日、かながわ県民センターにおいて漁業士会通常総会が開催され、令和4年度事業報告並びに収支決算、令和5年度事業計画並びに収支予算が協議され、承認されました。総会に先立ち、今年度新たに認定された青年漁業士4名、指導漁業士1名が紹介されました。



新青年漁業士の紹介



漁業士総会の様子